

奄美大島・宇検村における世界遺産価値保全と地域活性化に
向けての新しい観光のあり方に関する研修（織先生・柘植先生）
2024年9月5日（木）～9日（月）

9月5日（木）

11:00 奄美空港集合

14:00 宇検村村役場到着

新元一文さん（一般社団法人巡めぐる恵めぐる代表理事）講義

竹下世利人さん（宇検村村役場）講義

18:00 やけうちの宿にて夕食

奄美大島研修の初日、宇検村村役場にて、奄美大島で集落活性化支援にご尽力されている新元一文氏と役場の方のレクチャーを受けました。

「なぎ物語」の中のやけうちの神々の話は、人と自然の共存を見つめ直し文化を残す必要性について説いており、「感じる力を取り戻そう」という言葉は、これからの研修において実際に見て、経験して、感じることへの期待を大きく膨らませるものでした。



飛行機の窓から見た、美しい奄美大島。



昼過ぎから曇天となり、時々小雨もパラつく空模様。雨の多い奄美大島らしい景色を、バスの車窓から楽しみました。



バスで移動しながらのお昼ご飯。「島とうふ屋」の特製弁当。塩豚と大根（写真右下）が特に美味しかったです。



新元さんは、講義中に島に伝わる歌も披露してくださいました。



やけうちの宿にて夕食。とてもボリュームミーでした。



宿の駐車場より、星を撮影。

9月6日（金）

朝、私は7時ぐらい起きて友だちと一緒に散歩に行き、奄美大島の朝を満喫に感じた。そして、7時半にホテルの食堂で先生と同行の皆さんと楽しんで朝ご飯を食べた。8時半、我がグループは先生と一緒に20分ほどかかって石良に到着した。そして、忙しくて楽しかった一日が始まってきた。

最初の初めには、私たち四人が集落の方と挨拶をしたあと、男女二人ずつ分けられ、女性の二人は屋内で食事、掃除をしており、私を含めた男性二人は室外で祭りのための準備をしていた。集落の皆さんの指導により、作業がスムーズに進んでいた。そして、村民の中で、私よりもっとも印象深い人はMさんである。その日だけ会えるから残念と思うが、短時間と言っても、日中の諸事情及び東京と奄美大島の違いを交流しながら作業をしていたから、よりリラックスの雰囲気が進んだから疲れても嬉しくやっていた。これも私にとって、いい思い出となっていった。

そして、約2時間を経て、区長さんと初めて会った。区長さんに対する初対面の印象という、全く偉ぶることがなく、すごく穏やかで親しみやすいお兄さんである。いつも笑顔で絶やさず、親しみやすい雰囲気を持っており、より高い地位にいても、誠実に人と接する。当日が忙しくて、簡単な挨拶だけをした。そして、11時半ぐらい、作業がそろそろ終わりそうだったから、Mさんは私たち男性二人を連れて役場にハブを見に行った。12時、我々は村民と一緒にラーメンを食べた。味という、上智の学食の野菜ラーメンとほぼ同じというが、特別な時点と場所ので、意外的に美味しかった。そして、食事が終わってから、織先生と柘植先生は我々を見に来た。一緒に座って他のチームのみんなとすこし話し合った後、我々石良の四人は観光に行った。

夜、石良での晩御飯が終わってから、区長さん、村役場のTさん、先生たちは私たちのグループを連れて、ナイトツアーに行った。野生のへび、アマミノクロウサギなどの野生動物を見た、それに、都市であまり見えないきれいな昴をも見えた。

10時ぐらい、住所に帰って、私たちの一日が終わった。



9月7日（土）

男女の行動は石良集落ではほとんどの時間で別々だったため、この日記を男子の部分と女子の部分に分けました。

男子の部分：

今日は9月7日、私たちは民宿を出発し、8時に石良集落に到着しました。前日にすでに村民たちと一緒に会場の片付けを終えていたので、今日はテントやテーブル、ベンチ以外の細かい準備を行いました。例えば、祭りで皆が飲む飲み物やビールの準備です。村民が車で大量の氷を運んできて、私たちは村民たちと一緒にそれを飲み物用のクーラーボックスに入れました。



こうした力仕事を終えた後、少し休憩をしてから、次は箱詰めされた豚肉の準備を始めました。この豚肉は前日にMさんが私たちに見せてくれたもので、前日に鍋で煮たものを乾燥させて、調味料を加えたものです。今日はこの処理済みの豚肉をプラスチック製の弁当箱に詰め、石良公民館の広間に運び、そこで皆で弁当箱に紙を巻き、ゴムで留めて箸を添えました。私たち石良グループのメンバーと村民たちでそれぞれのプロセスを分担し、合計400個以上の豚肉弁当を包装しました。その後、牛丼を食べて、少し休憩を取りました。



13 時頃、I さんが海辺に遊びに行こうと言いました。私たちはすごくいい考えだと思い、グループのメンバーのうち 3 人で海に行きました。タエン浜で 1 時間以上泳ぎ、珊瑚がとても綺麗で、そのビーチも本当に美しかったです。



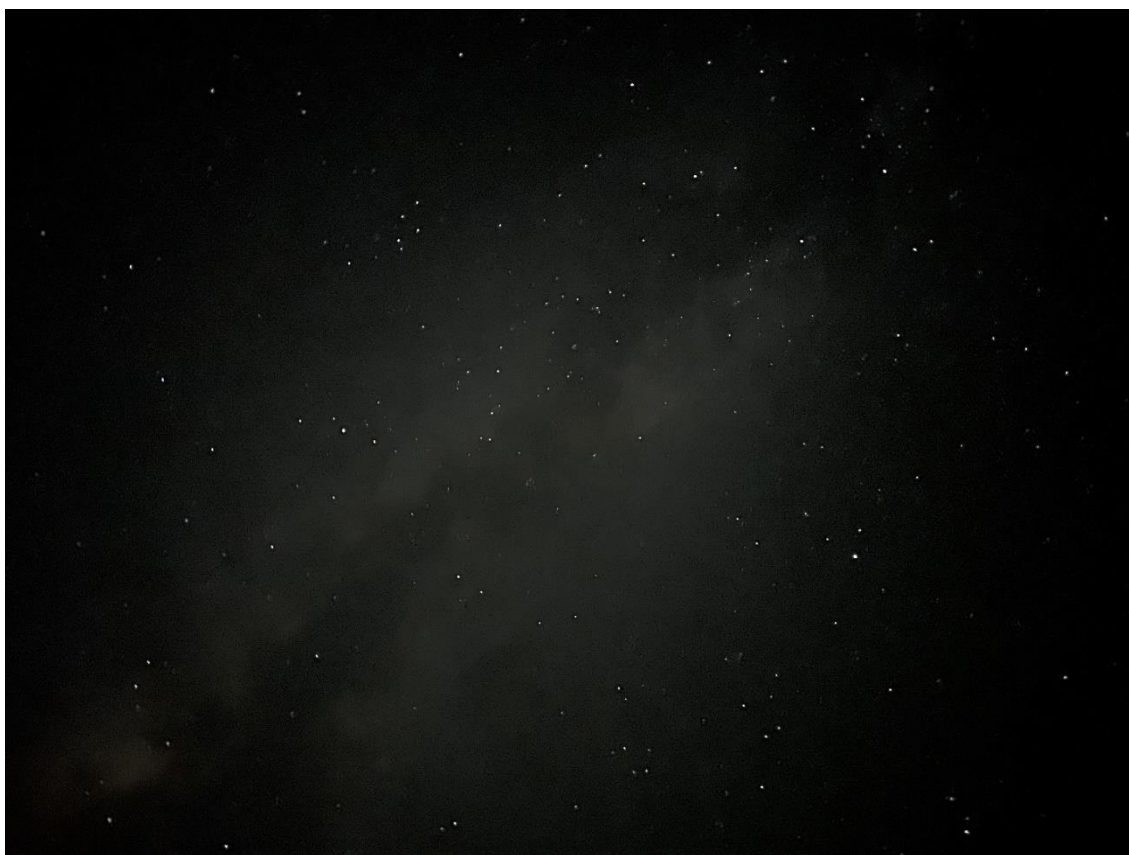
シャワーを浴びてから帰る途中、Iさんは白い珊瑚は実は健康ではなく、海水が温かくなるとそうなるを教えてくれました。元々様々な色な珊瑚が白くなった時、それはすでに死んでいる可能性があるとのこと。さっき海で見た鹿の角のような白い珊瑚が思い浮かび、少し悲しい気持ちになりました。Iさんはさらに、村のことや、海で養殖されている真珠のための貝の話などをしてくれました。その後、宿に戻り、着替えをして再び石良公民館に向かいました。今回は女子2人を公民館に降ろし、私たち男子2人はそのまま後ろの山に上がり、相撲の衣装に着替えました。掛け声とともに、私たちは少しずつ山を下り、会場を囲んで儀式を行いました。宇検グループの学生たちも到着しました。

16時に相撲が始まり、まずはチーム戦でした。私の出番が来た時、区長さんが昨日教えてくれた技を思い出し、なんとか勝つことができました！驚きと喜びでいっぱい、勝った後にやるべき儀式も忘れ、チームのみんなと一緒にお祝いをしていました。休憩中、私はずっと心配していました。体の大きい村の方も何人かいて、どうやって勝てばいいのかわかりませんでした。Yさんに聞いたら、「下手くそな足払いで彼を倒せばいい」と言ってくれました。その後、Tさんもやって来て、「あの先生は相撲の先生だよ」と教えてくれました。相撲の先生は私に、相撲での力の使い方をいくつか教えてくれました。私たち男子2人はしばらくその技を学びました。Tさんが相撲の衣装をしっかりと締めてくれて、私は次のチーム戦に備えました。しかし、今回、私は去年の相撲大会のチャンピオンと対戦することになりました。先生たちが教えてくれた技を全部使ったものの、やはり負けてしまいました。チームも最終的には残念ながら敗退しました。激しいチーム戦の後、本来は個人戦の時間でしたが、時間が押していたため、個人戦は中止となり、締め相撲として私とYさんが戦うことになりました。



待機時間中、私たちは村民たちと話し、他のグループの余興を見て楽しみました。子どもたちや村民たちはみんな楽しそうに遊んでいました。私は村民たちと話し続けていて、彼らは私の故郷について興味津々で質問してくれました。日が暮れる頃、ついに私とYさんの締め相撲が始まりましたが、残念ながら、何度か激しい攻防の末、私は敗北しました。しかし感動したことに、区長さんから4位の賞金をもらいました。本当に充実した、初めての相撲体験でした。

着替えを終えた後、再び石良公民館に戻り、最後の踊りをみんなで踊りました。歌声に包まれながら、相撲の会場を囲んで踊り、この充実した一日を振り返りました。終了後、私たち4人は公民館の裏で少し肉を食べ、夕食を済ませた後、民宿に戻って休みました。



夜の散歩中に、今夜の星空を眺め、今日の出来事を思い返すと、星が瞬くように心も穏やかになりました。まるで夢のように美しい一日でした。村民たちの温かさとチームの一体感が、この体験を感動と喜びに満ちたものにしてくれました。

女子の部分：

今日は 8 時に石良公民館に到着し、地元の方々と一緒に今日の祭りの準備を手伝いました。会場の清掃や整理、参加者に配るお土産の詰め合わせを手伝いました。地元の村民と石良グループの学生たちの協力で、昨日調理された豚肉を 400 個詰めることができました。



その後、MさんとKさんが用意してくれた牛丼をみんなで美味しくいただきました。



昼食の後、Iさんが親切にも車で30分ほどかけてタエン浜まで連れて行ってくれました。彼は私たちにシュノーケリング用具を貸してくれて、美しい珊瑚や魚たちを楽しむことができました。私たちは穏やかな青い海で1時間ほど泳いで楽しんだ後、16時に村の公民館に戻り、祭りに参加しました。



村民の皆さんのおかげで、私たちもこの祭典に参加することができ、大変光栄です。男の子たちは相撲に参加し、石良と宇検の学生たちは子供たちや大人のために余興を行いました。第1グループはバルーンアートで楽しませ、その後中国人の女の子たちが地元の方々に中国の歌を歌いました。最後に、他の女の子たちが子供たち向けにジェスチャーゲームを開催しました。



夜の終わりには、村民と一緒に踊りを楽しみました。



私たちは石良集落での滞在を本当に楽しみ、多くのことを学びました。この貴重な機会を得ることができたのはとても幸運でした。JAL、私たちの先生方、そして何よりも私たちを温かく迎え入れ、大切にしてくれた地元の皆さんに心から感謝します。



9月8日（日）

今日は、私たちのグループが宇検集落で過ごす最後の日であり、宇検集落で毎年開催される敬老の日と伝統的な祭典の日である。朝8時、私たちが活動センターに到着すると、すでに皆さんがそれぞれの役割を持って忙しく動き回っていた。食べ物の準備をしたり、ホールを掃除したり、相撲の会場を整えたりと、皆が協力してお祭りの準備を進めていた。

すべての準備を手伝い終えた後、村の方々は私たちに少し休むようにと行ってくださったので、活動センターの前を歩いて少し散歩した。少し歩いた先には広がる美しい風景が待っていて、山と水が一体となったその景色は、まるで一枚の絵画みたい。都会とは全く異なる美しさに心が癒された。村民たちはこの場所で美しい魚を飼育しており、観光客に船を貸し出して釣りを楽しんでもらうビジネスも営んでいる。



昼食の時間には、村の皆さんが奄美の伝統的な料理である鶏飯（けいはん）をご馳走してくれました。初めて食べたのですが、鶏肉の旨味がしみ込んだご飯と、スープの優しい味わいが絶妙で、とても美味しかったです。おもてなしの心が伝わり、村の皆さんとの交流が一層深まったように感じた。



午後、祭典が正式に始まり、村の子供たちが一緒に披露した舞踊は、壮大で感動的で、非常に深い印象を残した。伝統的な三味線の演奏は、私たちに奄美大島が誇る本物の文化を感じさせてくれた。また、相撲の試合もあり、大人たちだけでなく子供たちも参加し、真剣に競い合い、真の文化継承を実現していた。私たちが宇検集落に余興を提供した。最初に「ジェスチャーゲーム」を行い、次に「バルーンアート」でみんなを楽しかった。どちらのゲームも予想以上に盛り上がり、笑い声が絶えなかった。余興の一環として、中国語の歌「我只在乎你」と、日本の伝統的な歌を披露した。また、辰年生まれの人々による特別な催し物もあり、彼らのパフォーマンスは祭りにさらなる盛り上がりをもたらした。

祭りの最後には、上智大学の学生と先生たちが一緒になって、宇検集落の皆さんと共にフィナーレの踊りに参加した。全ての活動が終わった後、心地よい疲れを感じながらも、村の人々と深く交流できたことに感謝の気持ちでいっぱいになった。



9月9日（月）

最後の日、3つのグループは、「オーバーツーリズム」、「密猟」、「人口過疎化」という3つの課題について発表しました。皆さんは、この4日間の自身の経験や現地の状況をもとに、それぞれの見解や問題解決策を提案しました。

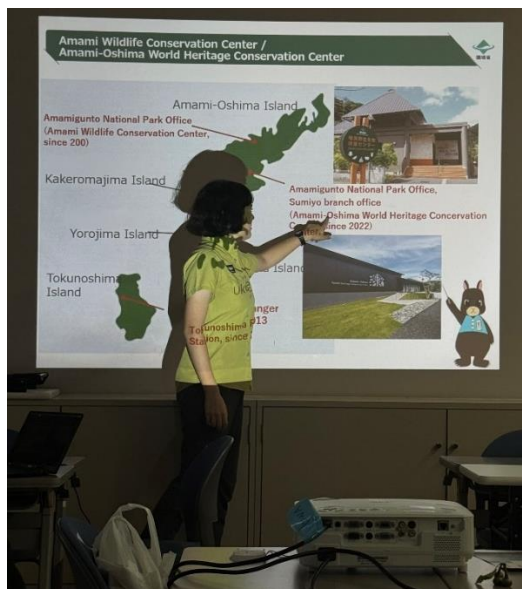


発表が終わった後、村長や村民たちに別れを告げ、バスに乗って宇検村を後にしました。

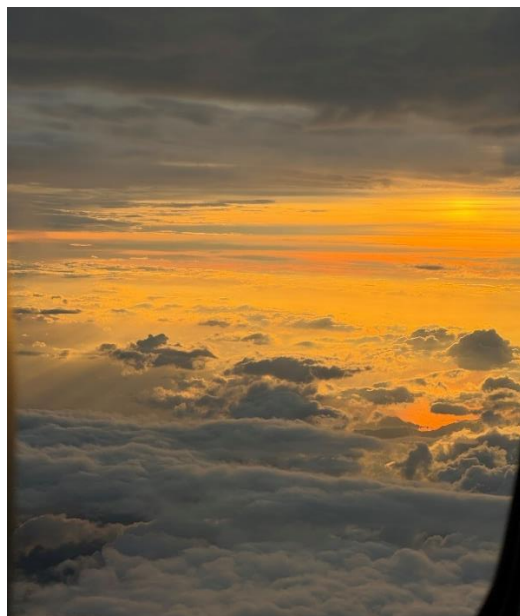
次に、奄美大島世界遺産センターを訪れました。展示室では奄美大島の森を再現し、生き物の鳴き声や雨の音、明るさによって1日に変化を体感できました。森や雲霧林、溪流、マングローブ林の風景と生き物の様子を壁一面に映し出して、世界自然遺産の魅力を感じました。



また、マングローブの森にも入りました。遠くを眺めながら雨音を聞きつつ、森林浴の魅力を体験しました。



その後、環境省の〇様から奄美大島の環境と歴史についていくつかの問題点を紹介していただきました。具体的な数字や画像を通じて、問題の深刻さを直感的に感じました。



東京への帰り道、窓の外空が次第に暗くなる中で、今回の研修旅行は締めくくりとなりました。

最後に、今回の研修旅行を企画していただいた上智大学地球環境学研究科、奄美大島郡宇
検村自治体様、日本航空会社様に心より感謝致します。